

## 第5回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和4年10月31日（月） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎4階 401会議室

■出席委員 14名（50音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、  
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、春田 祐子委員、  
福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、鷺尾 和彦委員

■欠席委員 1名 高木 康裕委員、

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、  
池田主任、上川主任、満井主事

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 多摩市総合計画市民ワークショップの報告について
- 3 「（仮称）第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討について
- 4 その他

閉会

## 1 開会

出席委員は14名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

### 【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料21）の確認を行い、修正等無く了承された。

### 【2 多摩市総合計画市民ワークショップの報告について】

有限責任監査法人トーマツより資料22について説明。

会長 年齢の偏りが無かったということであるが、この理由は何か。

トーマツ 募集方法としては、市民から3,000名の無作為抽出を行い、そこから参加と回答した71名の方に参加いただいた。

会長 18案の意見は各グループでまとめてもらったものなのか。

トーマツ その通りである。延べ18グループであったため、18案を掲載している。

委員 アンケートの結果で、性別と年代別に分かれているが、年齢別の性別の偏りなどはなかったか。女性が活躍できることが重要だと思っているが、そういった意見が無かった。例えば、多摩市の市議会で女性議員の割合が高いなど特徴だと思っている。

トーマツ 男女別・年齢別割合などはすぐには回答できないが、当日は子どもを連れた男性や女性の方がおり、20～30代では男女半々ほどだと感じた。

副会長 この市民ワークショップの結果は、総合計画にどのように反映させてきたのか。理由として、キャッチコピーは重要であるが、その土台となる考え方を深めていくことが重要であると考えている。明るい言葉は大事であるが、多くの市民が抱えているいろいろな課題や不安をどう乗り越えるかということも大事である。市民からはそういった意見も聞かれたと思うが、運営されている中でどう感じられたか。

トーマツ 今回の市民ワークショップの目的としては、市民の方が生活実感から考える将来都市像や目指すまちと審議会の考えの差が無いかという点も見たいと考えていた。キャッチフレーズの作成は目的ではなく、作るために重要な要素をまとめていただくために設定しており、ラウンド1・2で検討いただいた多摩市の良さや目指すまちの姿として求めるものを整理いただいた。頂いた意見に感じたこととして、前向きな意見が多く、共生や誰もが活躍といったような、視座の広い考えで意見いただけたと考えている。

事務局 前回計画策定における活用では、今回と同様にワークショップの結果を審議会上に報告し、検討材料とした。また、審議会上における議論では、明るだけの意見でなく市民の課題や不安を踏まえた上で基本構想を策定できればと思っている。それらは、今回新たに構想に入れる背景として整理したい。

副会長 誤解の無いように言うと、目標は明るいものとはしていただきたい。「皆が活躍できる」などは審議会上の意見ともつながっているが、その「皆」の市民像や「活躍できる」はどのような場かについて、イメージはあるか。

トーマツ 多かった意見として、地域コミュニティに関するもので、気軽に参加できる場が欲しい、ワークショップに参加してまちづくりに参加することは大事だという意見を皆おっ

しゃっていた。

- 副会長 抱えている課題を皆でつながっていくことで乗り越えていこうという話だと感じた。
- 委員 すっきりしない点として、今どういったことが多摩市の課題であるかについて、共通認識を持たずに将来像を考えても、財政や人手などが壁になったりするのではないかと。多摩市の総合計画を作るにあたり何を乗り越えないといけないか、それは市民の方によって違うとは思いますが、課題についても把握していかないといけないと思う。市民の方の意見をまとめると、あれもこれもやることになり、実際にそれができるのか、客観的な課題についても把握しておきたい。
- 委員 同じ意見として、素晴らしい良い未来像を示してもらったが、例えば少子高齢化など、これから大変な問題・課題も出ているのではないかと。
- 委員 検討にあたっては現状をベースに考える手法と、目標を立てて足りない要素を考えるバックキャストという手法がある。私としては未来から考えるバックキャストが良いのではないかと考える。
- 委員 私もバックキャストに賛成である。こういった形のないもの考えるにあたっては、どういった未来を目指すかを考えた上で、多摩市の持つ価値をどのように生かして達成していくかを考えるかが大事だと思う。目標の実現のために、エネルギーを集めていけるのではないかと。例えば男女共同参画でも、国全体では推進が足りないが、多摩市だけでも率先して取り組んで、子育て世代の方を集めていくという方法もあるのではないかと。
- 会長 将来像と課題のつなげ方について、目標にウエイトを置きつつ、バックキャストで考えるというような話が出ている。前半は、共生・コミュニティで課題を解決していくという全体像はあったが、だれがどんな課題を解決するのかについても整理が重要ではないかと。
- 事務局 課題の把握については、計画策定の背景にあたるものとして、次回審議会において事務局でまとめたものをお示しさせていただきたいと考えている。次回以降で、課題に基づく取組の必要について、議論いただきたい。

### 【3 「(仮称)第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討について】

事務局より資料 23 について説明。

- 会長 進め方に関するご質問はあるか。
- 委員 バックキャストもいいと思うが、文言としての将来都市像だけでは、それがどのような背景や問題意識で出されているのかが見えない。将来像として出されたことの背景にあるものが大事で、審議会はそれを探って共有するのが有意義ではないか。今の進め方は、将来像がパッチワークのようになるように思えるが、基本構想は、ストーリーが大事と思う。そこで、出された文言としての将来像から出発するだけでなく、背景・課題から出発したアプローチを含めて、2方向からのアプローチをしてもらえればと思う。
- 会長 今の意見は要素だけを示しているが、それぞれその背景となる課題となる点があるた

め、次回審議会ではその点についても議論するようにとのことだと認識した。

事務局 今背景について検討しているところであり、今回の協議で重要な点を整理していただければ、集中して取り組んでいきたい。

委員 市民ワークショップでは総花的に意見が出ているが、その中でもプライオリティーを付けるならば、どういった意見が多かったか。

トーマツ 資料にそれぞれの意見をまとめ、将来都市像の左にキーワードとなる要素を付けさせてもらっている。その結果として、多い意見もあったが、住民それぞれの価値観の元で様々な都市像をいただいております、ここで発言してバイアスがかかるといけないため、資料を踏まえて発言いただければと思う。

委員 市民意見では、よく聞く意見が多いように感じた。そのため、現実としての制約条件とやりたいことのプライオリティーをうまく調整する必要があるのではないか。しっかりと時間を取って議論する必要がある。

会長 市民意見のプライオリティー付けは難しいとも思う。分野ごとの課題に関しても重要な部分にはなるので、今日の議論の中でもどんどん発言していただきたい。

委員 市民意見の中で商業的な視点が欠けているのではないかと。今、多摩市の商業は永山地域を除いて低下しているが、ワークショップではそういった意見が出ていないと思う。ポストベットタウンとして、普通のまちになるということを考えると、加えるべきではないか。

委員 市民意見の「多摩市らしさ」は、ユニークで、注目した。具体的に少し挙げたいが、例えば、「子育てがしやすい」という意見があるが、多摩市の合計特殊出生率は低くなっており、本当はどうなのかとも考える。一旦現実としてどうなのかを見て、それを元に将来像を考えることも手ではないか。また、都市づくりとして、「考えて作られたニュータウン」を良いこととしているが、ニュータウンとしての課題もあり、現状は本当に良いとしていいか、考えることが必要と思う。他にも、「1つの場所で用事が済む、商業施設が充実」という意見も、大型ショッピングセンターは便利であるが、一方で地域の商店街は厳しくなっている。「景観が良い」というのはどのようなことを指しているかわからないが、ニュータウン地区と旧市街地それぞれに魅了があり、それをそれぞれ伸ばすべきととらえたい。市民意見そのものをどうするという点でなく、本当にそうなのかという点について、この場で議論すべきではないか。構想の方向性として、今あるものを伸ばす、課題を解決するなどいろいろな方法がある。

会長 良いとされていることについても、改めて考えてみるべきであるとの意見と認識した。足りない意見があるというよりも、その意見の裏側に隠れていることも考えていくべきとの意見をいただいた。

委員 加えて、「図書館など公共施設」を大事にしてほしいという意見は私も同じであり、そういった良い点を計画の中で伸ばしていくようにしてほしい。長所を伸ばす、今を維持する、無いものを作るなどの方向がある。なお、良いところとして「財政が安定している」とあるが、今後を考えるとその認識はどうかと思うところであり、次の計画の実現に向けては、プライオリティーを付けて取り組んだり、市民と行政が共同で知恵を出して工夫して乗り越えていくのが大事と思う。

副会長　ご指摘の通り、魅力的であったところが裏目に出ているものをどう対応していくかが重要と感じた。これが脱ベッタウンにつながっていると思う。事務局が、「循環」「関係・場」「安心」「成長」「多様性」などの見出しを付けてもらったが、この5つの連環が重要であり、ただ並べるだけでなく、論理的に構造化して整理していくことが必要である。私の整理では、目指すところとしては、「安心」と「成長」があり、「成長」はこれまでの経済成長だけではなく、商店街が身近やチャンスを活用するような経済成長を含み、コンピテンシーとして市民の力が伸びていくなどを含んだ言葉である。経済だけではないちょっと違った成長をどのように目標に位置付けるかが重要となる。同時に、「安心」の中でそうしたダイナミクスが生まれていくのが重要となる。

次に、「循環」と「関係・場」が目標を達成する方法として位置づけられる。豊かな場が多面的に保証され、その関係・場が固定されず、常に循環して広がっていく。循環するのは、人やモノ、経済や環境などで、その中で安心と成長が実現していく。

最後の「多様性」は、そういった取組を行う上での特徴であり、多様な関係・場が循環し続けることで、安心と成長が実現される。それに環境という言葉はどう関係させるかという問題はあるが、そういった論理構造になるのではないかと考えている。

会長　「安心」「成長」がベース・目的であり、「循環」「関係・場」が方法で、「多様性」が担い手としてそれを動かす要素であるというように、整理いただいた。

委員　「循環」に関しては、「流動」という言葉があり、これがいろんなことを直してくれるという考えなので、これを使うのもよいのではないか。

委員　「レジリエンス」という言葉が思い浮かんだ。また、「成長」という言葉はいろいろな意味があり、高度経済成長などのイメージが強いが、今は「持続可能」という言葉が合うのではないか感じた。

委員　私は「動」として動きが成長につながることや「アクティブタウン多摩」という言葉がキーワードと感じた。

会長　私が関わったコロナ後の東京都のまちづくりプロジェクトでは、「柔軟性、フレキシビリティ」など変わる余地があるというキーワードが出ていた。

委員　皆さんの意見に共感したが、それは、多摩市に限らず、定常型な社会となった時に、多くの人々が共通して求めていることではないか、と思う。成長から縮退へと時代や社会構造から変わること、こうした意見や考えを持つ人は広がっている。この場で大切なのは、そのような考えを、概念的な言葉として議論するのではなく、その解像度を上げてより、この多摩市にとってどんなストーリーが描けるかを具体的に考えることではないか。

市民ワークショップの個々の市民の意見が正しい正しくないということではない。それは多摩市に住んでいる方々には実際にそう見えているということである。しかし、課題の裏を見ないといけないというのはその通りであり、住民の方々は必ずしも詳細な行政データを把握した上で述べられているわけでもない、そこは多摩市の事務局側で統計データとして、何が動いて何が動いていないのか明らかにしてもらいたい。

いろいろな意見が総花的に出ていたが、これは多摩が全体として豊かであるということを表しているとも受け止められる。こういったワークショップで「文化」のキーワー

ドが挙がるのは珍しい。これは多摩市の総合力が高いため、挙げたキーワードだとも考えられる。「総花的」というのは必ずしもネガティブなことではなくて、むしろ多様な豊かさがある街として肯定的に受け取ることもできるのではないか。またそれは実は多摩市にとっての個性といえるかもしれない。

全体としての方向性は委員の中でも大きくは共感できているように思うので、これを単に概念ではなく、多摩市に当てはめると具体的にどうなるか、解像度を上げて考えることが重要ではないか。そのためには街の中で生まれている小さな成功事例をたくさん示して、こんなことが起こっているまちだということも共有することも大事だと思う。住民の方々の実感、行政の持っている客観的なデータ、小さな成功事例、こうしたものを持ち寄り、具体的なストーリーや構造を描くというプロセスが良いと思う。

会長 解像度については、構想はコンセプトとして、細かいところは計画でとしてきたところであるが、だれがどのようにといた点については、早めに踏み込むべきということで、現状についてデータとしていただいて議論できれば良いと考える。

副会長 議論が深まり素晴らしい報告書ができたとしても、議会に出すとそれぞれの議員から言葉が入っているかという視点で意見を出される恐れがあるため、せっかくの議論が生きるよう、説明可能なように準備することも重要である。

委員 総合計画は基本構想と基本計画の2層からなるが、基本構想は議会の議決を得る必要がある、より長期の視点に立って、多くの人の同意が得られる内容にする必要がある。

委員 基本構想は総花的にならざるを得ないところはあると思うが、それぞれの言葉にどのような意味・背景があるということを整理・共有し、基本計画に反映させる考えとして、固めていく必要があると思う。そのためには、事務局となっている市の職員の方にも審議会に委員として入ってもらって、同じテーブルで率直な意見を言ってもらえることがあればありがたい。また、市の方々は、計画の方向性や内容について、会長とざっくばらんに議論してもらっても良いと思う。

委員 市民ワークショップで、審議会になかった新たな話などは出たのか。

事務局 市民の方の実感では、みどりの話が多く出ていた。また、郊外都市として都心に通勤するのにアクセスが良いという話が出ていた。

委員 「みんな」という言葉にすべてが含まれると思うが、「子ども」を大切にするという考えが入って欲しいと感じた。例えば、「芸術文化」では、子どもたちに豊かな「芸術文化」の体験を通じて学んでほしいと検討している。また、ある学校の懇談会で出た事例として、ある市民センターで募集したボランティアに小学生が応募してきたので、それを受け入れて実際にできることをしてもらっており、そういった子どもの参加や女性の参加についても加えてほしい。

委員 みどりや公園が多いという意見があったが、食や生物多様性としては農地が減っているのは課題と思っている。人間の基本としての食や、伝統文化の担い手としての農家を受け継いでいくこともどこかに入れてほしい。そういった課題は市民の目にはなかなか映らない。

委員 農業につながる「花」について、昔は駅前の花壇がきれいであったが、今では手入れがされていない。昔はあった花の世話をする仕組みや花を見て心豊かになる流れが無く

なっているが、多摩市では協働によって「花」の整備を達成することが可能だと思っている。その取組が心を豊かにし、お互い支えあうことにつながるため、そういったきれいなまちづくりも重要なキーワードだと思う。

委員 農業は日本中どこでも後継者不足であり、人口が減少していく中でだれにどの役割を担ってもらうか、人的資源をどう割り振るかが、大きな課題だと思っている。多摩市の農業では高齢化などは課題となっているのか。

委員 多摩市の農業は、若い人の流入や退職された人の手助けなどが行われている。農地は一度無くすと再生が難しく、公共性を持つものとして、農地の多面的な役割を生かすために維持していきたい。

委員 そういった個別の議論をする前に、市の現状整理と共有を行わないと、人によって興味関心が異なるため、議論がバラバラになる恐れがある。次回の審議会ではどういった資料が出されるのか。

事務局 対応としまして、第1回審議会でお配りしていた、「多摩市基礎データ集」を改めて説明するとともに、トーマツから国や東京都の状況を6つの目指すまちの姿ごとに整理したものや、他団体と多摩市を比較したデータ集をお出しする予定である。

委員 会社勤めの身としては、人口や雇用、商業などビジネス的な観点の話は分かる。一方で、今まで議論した心の豊かさにつながるものについては、例えば農地であったり、市民活動・活力であったり、データには落としづらいとは思いますが状況整理をお願いしたい。

事務局 市民活動の状況ということであれば、先ほどの意見いただいた小さな成功事例について、多摩市の取組について事務局から報告させていただきたい。

委員 我々委員も地域のことをすべてわかっているわけではないので、コラム的なまとめ方でも良いので、ぜひ整理して欲しい。

事務局 今回の委員の方には、実際にしないで市民活動を行っている方もいらっしゃるの、そういった話もしていただければと思うので、ご協力いただきたい。

委員 意見分類に安心という話があるが、安心安全に平和が追加できるのではないかと。多摩市は事件が少ないと思っている。

委員 数字だけではないという意見はあったが、子どもがどこに何人いるかなど、感覚ではわかっているものの、人口構成などデータとして提供して欲しい。人材不足が大きな課題と考えているため、それを担う人材がどこまでいるのかを把握したい。意見としてもらっている内容につながるデータをもらいたい。

事務局 第2回審議会、3エリアに分けて年齢3区別で人口を示したが、より詳しいものが必要なのか。

委員 子育ての対象となる世代の人口がどれだけいるかなど、これらの意見の裏付けとなるデータが欲しい。

委員 地球環境に関する取組に関して、基本構想でどのように呼びかけるべきか、あまり議論が無かったのではないかと。基本計画で地球環境をどう表現すべきかも課題と考えている。

会長 有賀委員から説明があったが、災害を通じて地球環境もより身近な生活に影響してくる話であり、どう書くかが重要である。

委員 いろいろな分野の意見が出されているが、イシューごとに区切って、環境や子育て、高齢化社会などについて議論すると、深まるのではないか。

事務局 行政的な分野として目指すまちな姿としてご検討いただき、より幅広いならば横断的な重要テーマとして、議論の場を設定させていただければと考えている。

委員 基本構想の検討スケジュールがあると思うので、どこまで検討できるのか、追加資料をお願いできるのかなど、見通しを示してほしい。

事務局 次の今後の審議会日程において、ご説明する。

#### 【4 その他】

今後の審議会の日程について、事務局より資料 24 について説明。

会長 その他、委員から連絡事項等がないようなので、審議会を閉会する。

#### 【閉会】

以上